

発行：日大土木会広報部会

〒101-8308

東京都千代田区神田駿河台1-8

日本大学理工学部土木工学科内

TEL：03-3259-0662

FAX：03-3293-3319

http://www.nu-dobokukai.com

# 日大土木会会報

## 日大土木会会長に 松田慎一郎氏を再任

### 【再任挨拶】

この度、皆様のご推挙により、再び、会長職を務めることとなりました松田でございます。

引き続き、会員の皆様と力を合わせて円滑な会の運営、活発な活動の実現に努めてまいります。

土木会の会長をお受けついでありがとうございます。本日お忙しい中、土木会総会（理事会）にご出席いただき、誠にありがとうございます。

土木会は平成12年3月17日に設立総会が開催され、活動を開始いたしました。早いものですでに8年を経過しております。この間、会員の皆様の積極的な参加により、各部会を中心に活発な活動を重ねて参りました。

会長として、会員各位の努力に重ねて御礼申し上げます。



松田慎一郎 会長

さて、皆様ご存知のように、土木会は「土木技術の発展とその国際化を通じ、自己研鑽を持って母校日本大学の発展に寄与すること」を目的としております。

こうした目的を実現するために大学との連携を強化し、在学中の学部生や大学院生に対して特別講義を実施するとともに優れた修士論文に対して土木会として表彰を行うなど、研究・学習の奨励に貢献して参りました。

今後ともこうした活動を通じて若者に土木の面白さ、意義を出来るだけ素直に伝えたいと考えております。

一方、実社会では、土木をめぐる状況は必ずしも順調とはいえません。しかし、先日来報道されている四川大地震やミャンマーの台風被害などは他人事ではありません。

地震や台風が頻繁に襲撃するわが国において、インフラの整備が今後とも不可欠であることはいうまでもないのであります。

土木会としては、今後とも全員力をあわせて、わが国土木の発展のために、そして母校日本大学の発展のために、

協力する体制を整えてゆきたいと考えております。

今後とも、何卒、よろしくご協力賜りますようお願い申し上げます。

簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。

## 講演 「オランダでの研究活動報告」



通常総会後、理工土木、准教授、鎌尾彰司氏により講演が行われた。

1934年に鉄道盛土崩壊の大惨事の後に地盤工学分野の研究・調査のために創立され、デルフト工科大学土木工学科（1842年設立）と共にオランダの地盤工学の発展に貢献してきました。

2008年1月にデルフト地盤研究所とデルフト水理研究所等が改組してデルタレス研究所に生まれ変わりました。この研究所は職員を800人以上も抱える大組織で、デルタ地帯で安全に暮らすすべての技術を対象に研究・コンサルティング活動をしていくそうです。

【長期地盤沈下の予測法の確立に向けて】

今回の派遣でデルフト地盤研究所を選んだ理由として、これまで私が研究対象としてきている軟弱地盤（特に高有機質土）に関する研究が精力的に行われているという点があります。オランダの地盤はライン川の支流からの堆積物



写真2 30キロメートルの大堤防



写真1 デルフトの斜塔！？

等により砂・粘土・有機質土の五層になっております。有機質土は、歴史の一時に燃料用として採掘されてきたそうですが、未だにオランダの広い面積を覆っており、構造物の建設の短期間に、その後の供用中の長期間にわたる地盤沈下が生じ、上部構造物に被害や支障を与えるという事例が数多く報告されてきております。（写真1）

この軟弱地盤の長期沈下の予測法の確立を目指し、2000年からデルフト地盤研究所の E. J. den Hartog 博士と共同研究を行ってきております。今回の滞在中のテーマとして、「過圧密地盤の長期沈下予測に必要なアインタックパラメーターの評価」ということを掲げ、定ひずみ圧密試験装置や三軸圧縮試験装置などを用いて、荷重・除荷の室内実験を中心に取り組んでまいりました。その他にもサンプリング試料の品質および物性把握として弾性波やCTスキャンを用いた評価手法の開発にも取り組みました。

【オランダの土木技術】

昨年開通75年目を迎えた大堤防（写真2）はなんとと言ってもオランダの代表的な土木構造物であります。全長約30キロメートルにおよぶ堤防のおかげで、北海から押し寄せる高潮の対策にもなっております。また、オランダ南西部

は北海と接しているうえ、ライン川の支流のマス川のデルタ地帯を干拓して国土を広げてきた経緯があります。1954年に死者1853人という大水害が発生してしまいました。それ以後、オランダでは「デルタプラン」と称して北海からの高潮対策に向けて水門・堰などを造ってき

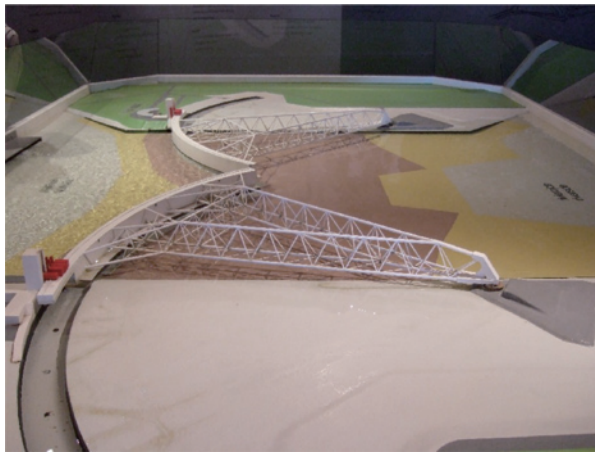


写真4 マエスラントの洪水バリア(模型)



写真3 スヘルデ川の水門(デルタプラン)

ました(写真3)。その最後  
にできた構造物がロッテルダ  
ム近郊のマエスラント地区に  
ある、長さ300メートルの  
洪水バリア(写真4)です。  
このバリアが高潮時に川の両  
岸から出てきて川を塞ぐので  
す。そのため、上流部では高  
潮に対しての安全を確保でき  
るようになっております。

表1 収支決算総括表

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

収 入	3,056,333 円
支 出	1,556,177 円
次年度繰越収支差額	1,500,156 円

1) 収入の部

金額単位：円

科 目	予算額	決算額	増減
会費収入	1,600,000	1,008,000	▲ 592,000
総会収入	300,000	110,000	▲ 190,000
雑収入	0	698	698
前年度繰越金	1,937,635	1,937,635	
収入合計	3,837,635	3,056,333	

2) 支出の部

金額単位：円

科 目	決 算 額	備 考
1. 事業費	1,186,027	
会議費	194,050	総会、部会委員会費等
印刷製本費	476,977	総会案内等
教育補助費	500,000	各学部教育補助
講演料	15,000	特別講演等
出張旅費	0	
2. 管理費	370,150	
消耗品費	53,445	
通信運搬費	286,100	
アルバイト	30,650	
3. 次年度繰越額	1,500,156	
支出合計	3,056,333	

表2 予算案

1. 収入の部

金額単位：円

科 目	平成20年度予算額	備 考
収入		
会費収入	1,200,000	年会費
雑収入	300,000	総会費・利息等
前年度繰越収支差額	1,500,156	
収入合計	3,000,156	

2. 支出の部

科 目	平成20年度予算額	備 考
事業費	1,100,000	総会・委員会・印刷製本・講演料・教育支援・旅費等
管理費	300,000	消耗品・通信運搬・アルバイト等
予備費	100,156	
次期繰越金	1,500,000	
当期支出合計	3,000,156	

# 平成20年度 日大土木会通常総会開催

## 会長に松田慎一郎氏が再任

平成20年度日大土木会通常  
総会が平成20年6月21日土曜  
日午後3時30分から日本大学  
理工学部駿河台校舎1号館2  
階の二一会議室において開  
催された。通常総会は次の通  
り進行了。  
一・平成19年度収支決算・  
副会長 松田慎一郎  
鎌尾彰司(総務部会担当)

竹澤三雄(広報部会担当)  
丹上幸一(業務部会担当)  
正木浩太郎(企画部会担当)  
盛武建二(研究部会担当)  
監事  
清野茂次、坂井淳  
理事  
石井良昌、内田興太郎、梅津  
喜美夫、大木宣章、小俣芳明、  
小島朗史、鎌尾彰司、河合紘  
茲、木内孝蔵、岸井隆幸、古  
坂藤吉、佐伯謙吾、佐丸雄治、  
座親勝喜、島崎敏一、定塚正  
行、鈴木宏、関耕一、瀬在武、  
曾我部博、竹澤三雄、田野久

貴丹上幸一、長林久夫、塚  
本地方、塚本恒雄、中川亮  
西松好郎、根本亮、野村卓史、  
原田宏、広谷彰彦、藤田龍之、  
星埜正明、正木浩太郎、町田  
泰法、松田慎一郎、丸山誠  
水野政之、三橋宏次、村田恒  
雄、盛武建二、森元峯夫、柳  
沼善明、山崎淳、山田清臣、  
山田泰生、渡辺清風  
なお、任期は平成20年4月  
1日から平成22年3月31日ま  
での2年間である。

田慎一郎会長の挨拶に続き、  
竹澤三雄氏が議長に選任さ  
れ、竹澤三雄氏の議事進行に  
基づき第1号議案平成19年度  
収支報告・事業報告・監査報  
告、第2号議案平成20年度事  
業計画、第3号議案平成20年  
度予算案、第4号議案役員  
変更と続き、各議案とも満場  
一致で了承され、約20分が無  
事終了した。

第1号議案のうち、平成19  
年度収支決算は表1のとおり  
である。また、第3号議案の  
増減異動について入会2人退  
会24人であった。  
なお、会員の増減は、会員  
数一六八八人(平成20年3月  
31日現在)で、平成19年度内  
親会が開催され、約1時間に  
わたり賑やかに懇親が行われ  
た。